

地域総がかりで取り組む「遠阪の環境教育・ふるさと教育」

「遠阪川」で「ふるさと」＝「遠阪」の良さを学ぶ！

本校ではこれまでから、遠阪地域を流れる「遠阪川」を教材化した自然体験活動を実施してきました。毎年6月のオープンスクールでは、近隣の「青垣いきものふれあいの里」の専門員をゲストティーチャーに招き、全校生で「生き物探検活動」を行ってきました。特に4年生はその後、総合

環境省の指定を受けてESD（持続可能な開発のための教育）

こうした本校の継続した取組が、環境省の目に止まりました。本校は本年度、兵庫県で唯一、環境省「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育プログラム」作成・展開事業の指定を受けることになりました。

ESDは、「持続可能な開発のための教育」と訳されています。持続可能な地域づくりを進めていくために、学校が、地域住民、地域の専門家、環境行政の関係者等と手を結び、「地域を教材化」し、地域について学ぶ場を創り、地域の課題解決に向けた実践力・

行動力を育てようとする教育です。この教育を進めるために、環境省は「ESD環境教育プログラム」のモデルを作成しました。こうしたモデルプログラムの有効性を各地域で検証する「実証協力校」として、本校は本年度、「遠阪川」での学習活動に取り組むことになったのです。



「青垣いきものふれあいの里」専門員や地域の自然愛好家の皆さんにも、継続的に子どもたちの学習活動をサポートしていただくことにしました。その結果、遠阪川の水のきれいさを判断する「指標主物」の主目犬尻かぶ、壺

本校では、環境省のこうした呼びかけを、遠阪川での学習を充実させる好機と捉え、積極的に取り組むことにしました。兵庫地区プロデューサーの足立勲先生（自然体験教育研究所長）のアドバイスを参考にし、省のテキストを参考にしながら取組を進めました。カワナ、ヒラタドROMシなど水生生物のリサーチ活動は、



▲第3回目の指標生物リサーチ活動(2月)

これまで1学期で完結させていましたが、本年度、年間を通じて(各学期に1回)行うことにしました。

「遠阪川」での学習活動を充実させる好機に！

阪川がきれいな川であることとを実証的に学ぶことができた。きれいな遠阪川を守り続けていくために自分たちにできることは何かを、子どもたちが深く考える学習につながることで、きました。更に、「指標生物」として、これまでは昆虫に着目してきたのですが、遠阪川に生息し、川がきれいであることを裏付ける魚「カジカ」を、「遠阪独自の指標生物」と設定し今後着目していこうという新たな方向性も見出すことができました。

「遠阪楽校課外授業」子どもたちの学びが豊かに広がる！

本校の取組と連動して、有り難いことに、遠阪地域には、地域の教育力で子どもたちを育てようとする取組があります。遠阪地域では、遠阪自治協議会(遠阪まちづくり委員会)が、「ホタル観察会」「せつぶん草まつり」など地域活性化のための精力的な取組を進めておられます。こうした取組の実施時期に、「遠阪楽校課外授業」と銘打ち、地域の指導者の皆さんが、子どもたちの学びをサポートしていただいています。

去る2月22日(日)には「遠阪せつぶん草まつり」が開催されました。これに先立つ17日(火)には、遠阪まちづくり委員会の足立美隆さん、山中利樹さんが講師となって「遠阪楽校課外授業」をしていただき、4年



▲山中さんからお話を聴く4年生児童



生の子どもたちに「せつぶん草」についてお話していただきました。そこでは、「せつぶん草」のお話が、森林と川との関係へとつながり、遠阪川のきれいさの学習と結びつき、子どもたちの学び(気づき)を一層豊かで広がりのあるものとしてくださいました。

地域総がかりで子どもを育てる「遠阪の教育」へ！

「遠阪せつぶん草まつり」が開催された同日、本校は、環境省主催の「地域を舞台にした『ESDのちをつなげる教育』フォーラム」(会場：グランフロント大阪)に参加し、兵庫県を代表して実践発表を行いました。



▲環境省のフォーラム(2月22日 グランフロント大阪)

「遠阪川博士になろう！」と題し、遠阪川での環境学習の取組について、近畿2府4県から参加された皆さんに、成果等を発表しました。

本校としては本年度、環境省の指定を受け、これまでの遠阪川での学習について、ESDの視点で整理し、今後の取組を充実させる数多くの収穫を得ることができました。本年度の取組の成果等を検証しながら、学校教育と地域教育の融合＝「遠阪の教育」、学校・家庭・地域が一体となり、「地域総がかり」で取り組む「遠阪の環境教育・ふるさと教育」を一層推進していきたいと考えています。保護者・地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。